様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

長井南地区

平成２３年２月

山形県長井市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	山形県	市町村名	長井市	地区名	長井南地区		面積	945ha
交付期間	平成１８年度～２２年度	事後評価実施時期	平成２２年度	交付対象事業費	974.85（百万円）	国費率	0.403	

１）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路整備（市道平山中道線他2路線 440m）、道路改築（市道横町西2号線他9路線 2,030m）、歩道の改築（市道平山栄町線 850m）、コミュニティ歩道整備（あやめ公園駅前通り他7路線 1,550m）、親水公園と駅前広場整備（長井駅周辺 14,000㎡）、小桜館周辺整備（5,000㎡）、まちなか広場整備（桑島記念館周辺 3,000㎡）、せせらぎ水路整備（砂押川他2線 1,170m）、案内標識の設置（区域内 230箇所）、歴史的建築物移設（旧小池医院 1棟）、歴史的建築物活用（地域交流センター（小桜館）1,200㎡）
	提案事業	消流雪用水配水路整備事業（野呂川他6線 1,240m）、優良建築物等整備事業（駅舎改修 240㎡）、水辺環境整備（最上川 7,500㎡）、計画指標調査（長井南地区 2回）、ワークショップ開催（4協議会）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	○道路整備（市道本町西1号線180m）、道路改築（県道長井停車場線230m、県道長井口線260m）、歩道の改築（市道平山栄町線 850m）、コミュニティ歩道整備（花作川通り210m）　○まちなか広場整備（桑島記念館周辺 3,000㎡）　○歴史的建築物移設（旧小池医院 1棟）　○優良建築物等整備事業（駅舎改修240㎡）	○（道路整備ほか）同時施行予定の街路事業が延期することとなったことや、既存消雪施設の改良工事を別事業で行うこととしたため　○街路事業の実施時期が遅延することとなったため、広場整備の事業効果が半減するため　○移設協議の難航のため　○駅舎については、文化財の指定を前提とした改修をすべきとの意見があり、調査と検討のために事業期間中の改修が困難となったため	指標1（交流人口）、指標2（商業年間売上額）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く
	提案事業	なし	－	－
新たに追加した事業	基幹事業	○道路改築（市道屋城町線230m）○コミュニティ歩道整備（地蔵峠通り700m）	○通学路として道路環境の改善を図るため○フットパスルートを整備し観光ルートの拡充を図るため。	指標1（交流人口）、指標2（商業年間売上額）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く
	提案事業	なし	－	－

			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
交付期間の変更	当　初	平成１８年度～２２年度	－
	変　更	－	

２）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値 モニタリング	数値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	交流人口（観光人口）	万人	110	H16	113	H22		61	×	あり		広場、せせらぎ水路、コミュニティ歩道が整備され市民や観光客は増加している。	平成24年4月
										なし	●		
指標2	商業年間売上額（小売業）	百万円	36,520	H16	36,140	H22		34,465	×	あり		小桜館周辺等でのイベント（朝市等）数が増えイベントでの売り上げは増加してい	平成24年4月
										なし	●		
指標3	中心部交通量（自動車・歩行者別）	台/日 人/日	51,200 1,600	H15	52,300 1,630	H22		50,684 1,327	△	あり		道路・歩道等の整備が図られたものの、未整備箇所がまだ多く残っている。また、まちなかに賑わいを取り戻す対策が必要	平成24年10月
										なし	●		

３）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値 モニタリング	数値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	小桜館利用者数	人/年	5,516	H17				9,412			小桜館周辺の整備の結果、イベントや観光客が増加し新たなまちづくりの拠点となっている。	平成24年4月
その他の数値指標2	フラワー長井線の利用者（団体客）数	人/年	363	H17				23,735			せせらぎ水路やフットパスルートの整備によりまち歩きの含めた観光商品をPRできるようになった。	平成24年4月
その他の数値指標3	消雪施設延長	m ㎡	13,468 0	H17				14,508 1,264			冬季の安全とバリアフリー化が向上されるとともに、冬のまち歩きの観光客が増加した。	

４）定性的な効果発現状況

・ハード事業やまちづくりに対して、ワークショップの開催により地域住民が積極的に参加し将来のまちづくりを真剣に考える土壌が醸成された。その結果、中心市街地の街路事業が採択されたり「朝市」や「祭り」などのイベントの回数が増加し、地域の活性化が飛躍的に行われるようになり住民の自覚と自信が定着した。
・小桜館周辺や市内の裏道「コミュニティ」歩道の整備により公園などの観光施設を核として市内を散策する観光客や地元住民が増加した。日常の健康づくりにフットパスルート（コミュニテイ歩道を含む）を利用する人が多く見られるようになった。
・広場や道路の草刈や植栽等の維持管理を地域住民が率先して協力するようになった。

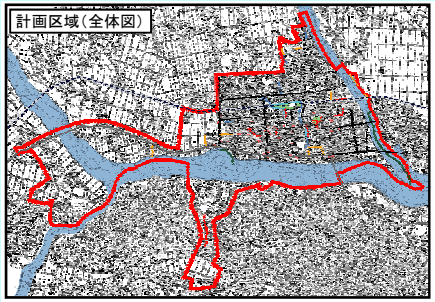
５）実施過程の評価

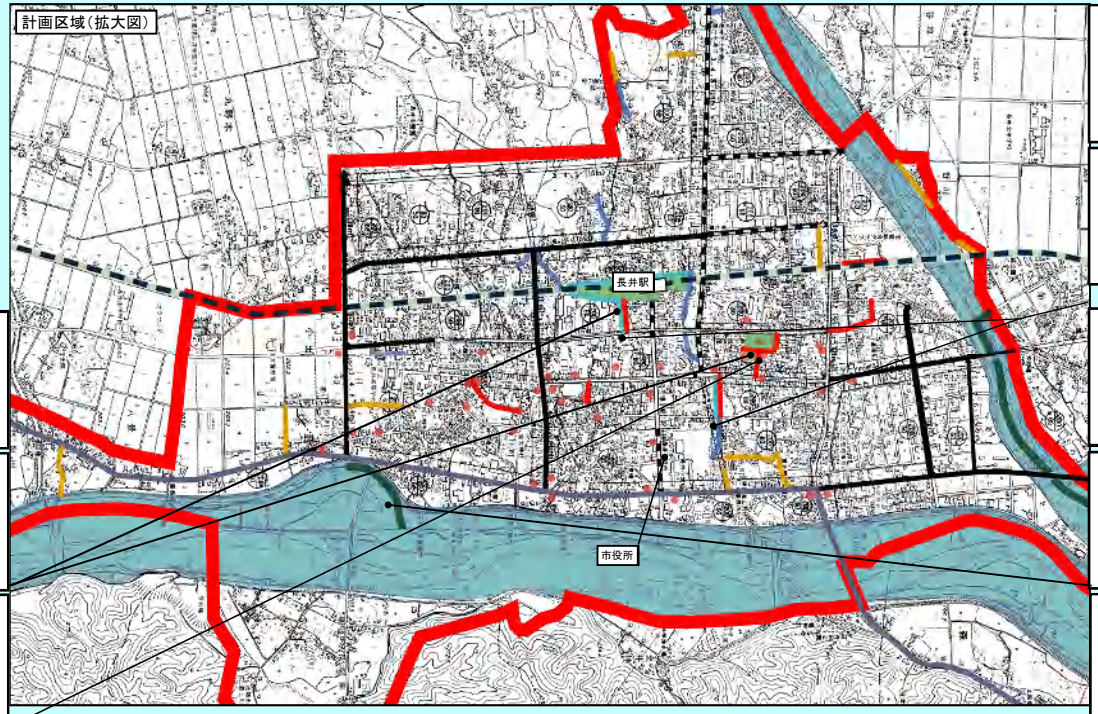
	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	行政、関係機関、まちづくりNPOを含めた中心市街地まちづくり協議会の開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	行政、関係機関、まちづくりNPO法人などにより取り組んできた社会資本整備総合交付金事業説明会等の開催状況について確認する。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	「本町・中央まちづくり協議会、大町、あら町とさらにこれら3つの協議会を統括する中心市街地まちづくり協議会」の設立	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	3つの協議会を統括する中心市街地まちづくり協議会は設立されなかったため、「本町・中央まちづくり協議会」「長井市宮・小桜街区まちづくり協議会」の活動状況について確認する。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

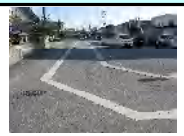
長井南地区（山形県長井市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
＜地域の資産を活かした吸引力あるまちづくり＞ ・観光のまちづくり　：既存観光資源を活かした交流人口の中心部への誘導，景観・都市基盤環境整備による中心市街地の活性化 ・人にやさしいまちづくり　：全ての市民にやさしいユニバーサルデザインの都市基盤環境整備	交流人口（観光人口）	単位：万人	110	H16	113	H22	61	H22
	商業年間売上額（小売業）	単位：百万円	36,520	H16	36,140	H22	34,465	H22
	中心部交通量（自動車）	単位：台／日	51,200	H15	52,300	H22	50,684	H22
	中心部交通量（歩行者）	単位：人／日	1,600	H15	1,630	H22	1,327	H22





■基幹事業
道路：道路整備・改築
整備 2路線：L=　260m
改築 9路線：L=1,695m



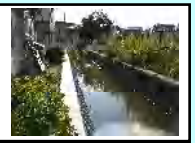
■基幹事業
地域生活基盤施設
親水公園と駅前広場整備
A=14,000㎡
小桜館周辺整備
A=　5,000㎡

■基幹事業
既存構造物活用事業
歴史的建築物活用
地域交流センター（小桜館）
A=319㎡

■基幹事業
道路：コミュニティ歩道整備
8路線：L=1,960m

■基幹事業
高質空間施設
せせらぎ水路整備
2線：L=550m
案内標識設置
地区内：41箇所

□提案事業
地域創造支援事業
消流雪用水配水路整備事業
6路線：L=1,300m



□提案事業
地域創造支援事業
水辺環境整備
最上川：L=350m
□関連事業
置賜野川河川環境整備

□提案事業
事業活用調査
事業効果分析調査
長井南地区：4回
まちづくり活動推進事業
ワークショップ開催：2協議会

まちの課題の変化	・せせらぎ水路やコミュニティ歩道の整備及び案内標識の設置によりフットパスルート等の魅力、回遊性が向上しフットパスルートを利用したまち歩きイベントの増加・まちなかへの観光客誘導につながった。また、地域住民が整備された水路・小道等を守り活かしていこうという気運が生まれまちづくりへの積極的に参加し始めている。しかし、ルートが広範囲に渡るため地域による熟度の差異もあり維持管理の体制については十分な協議検討が必要である。 ・整備された小桜館や駅周辺を活動拠点としてNPO団体等（市民活動）によるイベントの増加やボランティアのガイド活動のスタート等により、観光客の増加と住民活動が促進された。今後は、イベント等の定着や活動持続のためにPRの強化や事業の連携体制（商店街等のもてなし体制、鉄道事業者との連携）などが新たな課題となっている。 ・消雪施設の整備によって、高齢者や児童の歩行の安全性が高まったが、未整備な通学路等がまだあるために整備を継続していくことが必要である。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・コミュニティ歩道やせせらぎ水路の整備促進とともに、まち歩きイベントの企画を増やし、フットパスルートを広く活用してもらえるように環境の充実を図る。 ・各種整備事業の初期段階から地域住民へまちづくりへの参加を働きかけ、意識の向上を図り、NPO団体等（市民活動）によるまちづくり活動を促進する。 ・小桜館及び周辺広場を市民の交流拠点としてさらなる充実を図るとともに、利活用団体との連携強化を図りイベントの開催等を増やしていく。 ・フットパスルートや広場などの整備箇所の維持管理を地域住民とともに行う。 ・新たな観光資源の創出とともに、積極的な観光PRを展開する。また既存のイベントを他の市内イベントとの連携を図り、まちなか歩きにつなげていく。 ・歩道や消雪施設の整備が不十分である箇所について、中、長期的な整備計画により改善を図り歩行者の安全を確保していく。 ・鉄道事業者、市民、行政が連携したイベントや観光商品を開発しフラワー長井線の利用促進と維持管理を協働で行っていく。。

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　　評価委員会の審議

（7）有識者からの意見聴取

~~添付様式9　　有識者からの意見聴取~~

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他（区域の拡大）	●		888ha	945ha	フットパス関連整備については，国土交通省山形河川国道事務所で整備した「最上川フットパスながい」の周辺整備を行うものとしていたが，本市においても新たに加えるべきルートを設定するため，本市の観光資産である久保桜及びこれに通じる道路等周辺区域について，新たに計画区域に取込み，計画区域の拡大を行うため。

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
道路	道路整備（市道平山中道線）	13.5	160m	25.40	160m	事業の精査による工事費及び補償費の増額	目標・数値指標への影響はなし		●
	道路整備（市道清水町一本松線）	8.5	100m	0.00	－	用地交渉が難航のため取りやめ	目標・数値指標への影響はなし	－	－
	道路整備（市道本町西1号線）	27.0	180m	0.00	－	同時施行予定の街路事業が延期することとなったため取りやめ	指標1（交流人口）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	－	－
	道路改築（市道横町西2号線）	6.0	300m	12.60	200m	事業の精査による工事費の増額と事業延長の減	目標・数値指標への影響はなし	●	
	道路改築（市道大町舟場線）	12.0	130m	69.90	160m	道路法線の見直しによる用地及び補償費の増額	目標・数値指標への影響はなし		●
	道路改築（市道大町堤防線）	5.0	130m	5.70	115m	事業の精査による工事費の増額と事業延長の減	目標・数値指標への影響はなし	●	
	道路改築（県道長井停車場線）	65.0	230m	0.00	－	同時施行予定の街路事業が延期することとなったため取りやめ	指標1（交流人口）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	－	－
	道路改築（市道館町八景線）	11.0	250m	23.95	270m	事業の精査による工事費の増額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	道路改築（市道堀切南台線）	20.0	200m	19.15	190m	事業の精査による工事費の減額と事業延長の減	目標・数値指標への影響はなし	●	
	道路改築（市道八景館線）	85.0	200m	66.35	200m	事業の精査による補償費の減額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	道路改築（市道野川谷地線　1工区）	6.0	200m	37.50	200m	道路改築の必要による工事費の増額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	道路改築（市道野川谷地線　2工区）	6.0	130m	17.30	130m	事業の精査による用地及び補償費の増額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	道路改築（市道屋城町線）	0.0	－	11.40	230m	通学路として道路環境の改善を図るため消雪施設を設置するために追加	指標1（交流人口）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	●	
	道路改築（県道長井口線）	33.8	260m	0.00	－	既存消雪施設の改良工事を別事業で行うこととしたため取りやめ	指標1（交流人口）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	－	－
	歩道の改築（市道平山栄町線）	42.5	850m	0.00	－	段差解消のための歩道改良工事を予定したが技術的に困難なため取りやめ	指標1（交流人口）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	－	－
	コミュニティ歩道整備（あやめ公園駅前通り）	4.0	100m	6.17	130m	事業の精査による工事費の増額と事業延長の増	目標・数値指標への影響はなし	●	
	コミュニティ歩道整備（総宮神社通り）	12.0	260m	11.00	260m	事業の精査による工事費の減額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	コミュニティ歩道整備（小桜館通り）	32.0	300m	41.90	300m	事業の精査による工事費の増額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	コミュニティ歩道整備（撞木川通り）	1.8	120m	5.00	130m	事業の精査による工事費の増額と事業延長の増	目標・数値指標への影響はなし	●	
	コミュニティ歩道整備（砂押川通り）	2.0	130m	2.07	130m	事業の精査による工事費の増額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	コミュニティ歩道整備（木蓮川通り）	6.6	200m	6.00	80m	事業の精査による工事費の減額と事業延長の減	目標・数値指標への影響はなし		●
	コミュニティ歩道整備（花作川通り）	3.2	210m	0.00	－	整備内容を精査した結果現状利用の方が効果的であるため取りやめ	指標1（交流人口）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	－	－
	コミュニティ歩道整備（平野川通り）	1.9	230m	11.10	230m	事業の精査による工事費の増額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	コミュニティ歩道整備（地蔵峠通り）	0.0	－	2.00	700m	新しいフットパスルートを整備し、市内観光ルートの拡充を図るため追加	指標1（交流人口）及び指標3（中心部交通量）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	●	

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	親水公園と駅前広場整備（長井駅周辺）	50.0	14,000㎡	207.60	14,000㎡	まちなかの賑わいと中心市街地の活性化を推進するため、本事業に集中して整備することにより事業効果を高めるため事業費の増額	目標・数値指標への影響はなし		●
	小桜館周辺整備	53.0	5,000㎡	132.74	5,000㎡	まちなかの賑わいと中心市街地の活性化を推進するため、本事業に集中して整備することにより事業効果を高めるため事業費の増額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	まちなか広場整備（桑島記念館周辺）	135.0	3,000㎡	0.00	－	本事業と同時期に実施予定であった街路事業の実施時期が遅延することとなったため、広場整備の事業効果が半減することから、本事業期間内での事業を取りやめ	指標1（交流人口）及び指標2（商業年間売上額）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	－	－
高質空間形成施設	せせらぎ水路整備（砂押川 他1線）	53.2	1,170m	66.43	550m	事業の精査の結果、水路断面及び構造の見直しが生じたことから事業費を増額	目標・数値指標への影響はなし	●	
	案内標識の設置（区域内７５箇所）	46.0	230箇所	11.44	41箇所	設置箇所の精査と最小数で最大の効果を図るため、設置箇所の精査を行い設置箇所を減	目標・数値指標への影響はなし	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業	歴史的建築物移設（旧小池医院）	30.0	1棟	0.00	－	移設協議の難航により事業を取りやめ	指標1（交流人口）及び指標2（商業年間売上額）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	－	－
	歴史的建築物活用（地域交流センター（小桜館））	50.0	1,200㎡	61.50	319㎡	建築基準法の関係で収蔵庫の増築が難しくなったため、既存建物の改修のみ実施し文化財の保護と地域住民の多目的会議室のさらなる活用を図るため事業量及び事業費を減	指標1（交流人口）及び指標2（商業年間売上額）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く		●
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業（都市再生）									
住宅市街地総合整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業	消流雪用水配水路整備事業（野呂川他5線）	108.0	1,240m	107.35	1,300m	当初予定していた路線の他にも追加して事業を実施することにより、事業の効果が図られるため事業量を延長	目標・数値指標への影響はなし	●	
	優良建築物等整備事業（駅舎改修）	20.0	240㎡	0.00	－	駅舎内部の改修も計画したが、文化財の指定を前提にしての改修が必要との提案があり、調査や改修検討会議の設置が必要であり、事業期間内の改修が困難なため事業を取りやめる。	指標1（交流人口）及び指標2（商業年間売上額）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	－	－
	水辺環境整備（最上川）	40.0	7,500㎡	4.90	350m	7,500㎡の親水公園及びフットパスを計画したが、事業効果を精査した結果、フットパスのみでも充分な効果を発揮すると判断したため、親水公園については取りやめ	指標1（交流人口）及び指標2（商業年間売上額）に関連するが、指標及び数値目標は据え置く	●	
事業活用調査	事業効果分析調査（長井南地区）	4.0	2回	4.60	4回	都市再生整備計画の見直し調査及び事後評価の調査を充分に行うため事業費を増額	目標・数値指標への影響はなし		●
まちづくり活動推進事業	ワークショップ開催（4協議会）	4.0	4協議会	3.80	2協議会	市内4地区からの協議会設立の要望があったが、2協議会の設立にとどまったため事業費を減額	目標・数値指標への影響はなし		●

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
最上川フットパス整備事業		最上川フットパス整備事業	80	80	平成15年度～平成16年度	平成15年度～平成16年度	平成16年に最上川フットパスルートの一部が整備され、現在別事業で他施設が整備中であり、川と市街地をつなぐフットパスルートとして充実されつつある。	国土交通省事業

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）				目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
																あり	なし
指標１	交流人口（観光人口）	万人	「観光者数調査票」を用いて、久保桜、白つつじ公園、あやめ公園、はぎ公園、黒獅子まつり、水まつりの平成17～21年度来訪者数の傾向から、評価基準日【平成23年3月31日】における来訪者数を推計し、評価値とする。	116	H14	110	H16	113	H22	モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定		61	事後評価	×		●
											見込み	●					
指標２	商業年間売上額（小売業）	百万円	「商業統計調査結果」を用いて、平成14，16，19年度の小売業の年間商品販売額の傾向から、評価基準日【平成23年3月31日】における小売業の年間商品販売額を推計し、評価値とする。	37,252	H14	36,520	H16	36,140	H22	モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定		34,465	事後評価	×		●
											見込み	●					
指標３	中心部交通量（自動車・歩行者別）	台／日 人／日	「（平成21年）市街地交通量調査」により計測した値を評価基準日【平成23年3月31日】における評価値とする。	自動車 52,459 歩行者 2,090	H12	51,200 1,600	H15	52,300 1,630	H22	モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定		50,684 1,327	事後評価	△		●
											見込み	●					

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標１	市民・来訪者のための施設として、「せせらぎ水路」「コミュニティ歩道」「小桜館周辺整備」「駅周辺の整備」等が図られたものの、主要な観光資源であるあやめ公園とつつじ公園等への来訪者が大幅に減少したため、目標達成には至らなかった。	水まつり、黒獅子まつり、久保桜の観光客は増加しているものの、白つつじ公園、あやめ公園等の観光客の減少に合わせ集計条件の変更等が重なり大幅な減少により総合的に観光客はは減少している。
指標２	主要な観光資源への来訪者が大幅に減少していることと、今年度整備予定の小桜館及び長井駅周辺の整備が完了しても商業売上額が回復するまでは厳しい情勢のため目標の達成は困難である。	
指標３	過去9年間において自動車の交通量は横ばい状態、歩行者の交通量は減少傾向にあるものの、市道・コミュニティ歩道の整備により狭隘道路の解消、フットパスルートの整備改善が図られ市民や観光客数が確実に増加しており交通量の減少に歯止めがかかり整備効果が表れているものと考えられる。	

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○：評価値が目標値を上回った場合
△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）			本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1	小桜館利用者数	人／年	小桜館の管理者である（特）ながいまちづくりNPOセンターに問い合わせて平成２１年度１年間の利用者数を把握する。（平成２２年度は、小桜館の改修工事を実施のため７月から１２月まで閉館するため）	－	－	5,516	H17	モニタリング			小桜館及び周辺の整備効果により朝市や祭りなどが開催され中心市街地の活性化が図られたため。	指標2を補完して、中心市街地の活性化を説明する。
								事後評価	確定			
									見込み	●	9,412	
その他の数値指標2	フラワー長井線の利用者（団体客）数	人／年	平成１７～２１年のフラワー長井線の団体利用客数と長井駅乗降客数の傾向から、評価基準日【平成２３年３月３１日】における乗降客数を推計し、評価値とする。	－	－	363	H17	モニタリング			コミュニティ歩道や長井駅周辺の整備効果により交流人口の減少抑制、維持、拡大が図られたため。	指標１，３を補完して、既存観光資源を活かした交流人口の拡大を説明する。
								事後評価	確定			
									見込み	●	23,735	
その他の数値指標3	消雪施設延長	m ㎡	平成１８～２１年度に整備された都市再生整備計画区域内の消雪施設延長及び面積を「消雪施設管理調書」により施設延長（道路）と施設面積（広場）を把握し評価値とする。	－	－	施設延長（道路） 13,468 施設面積（広場） 0	H17	モニタリング			消流雪用水配水路の整備や道路の改築により全ての市民にやさしいまちづくりが図られたため。	ユニバーサルデザインの都市基盤環境整備を説明する。
								事後評価	確定	●	14,508 1,264	
									見込み			

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・ハード事業やまちづくりに対して、ワークショップの開催により地域住民が積極的に参加し将来のまちづくりを真剣に考える土壌が醸成された。その結果、中心市街地の街路事業が採択されたり「朝市」や「祭り」などのイベントが開催されるようになるなど、地域の活性化が飛躍的に行われるようになり住民の自覚と自信が定着した。
・小桜館周辺や市内の裏道「コミュニティ」歩道の整備により公園などの観光施設を核として市内を散策する観光客や地元住民が増加した。日常の健康づくりにフットパスルート（コミュニテイ歩道を含む）を利用する人が多く見られるようになった。
・広場や道路の草刈や植栽等の維持管理を地域住民が率先して協力するようになった。

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
行政、関係機関、まちづくりNPOを含めた中心市街地まちづくり協議会の開催	予定どおり実施した	●	【実施頻度】協議会関係・まちづくり計画策定関係　　合計６１回 【実施時期】平成16年～平成22年度 【実施結果】街路事業を核として「お母さんと子どもにやさしいまち」をコンセプトに中心市街地のまちづくりを議論した。「本町・中央まちづくり計画書」を策定しまちづくりを積極的にアピールし結果的に街路事業の採択となった。	自立した継続的な協議会の運営とまちづくり計画書の計画と協定の実現を図っていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
「本町・中央まちづくり協議会、大町、あら町とさらにこれら3つの協議会を統括する中心市街地まちづくり協議会」の設立	予定どおり実施した	●	まちづくり活動は、あくまで地域住民が主体的に活動体制と活動内容を検討実施してきた。	・本町・中央まちづくり協議会（目的：明るく住みよい活力に満ちたまちづくり活動の推進） ・宮・小桜街区まちづくり協議会（目的：まちなみづくり、安全安心なまちづくり、活性化と交流の推進）	各協議会と市民の主体的な活動に任せ、市は後方支援に徹する。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由　　)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由　　)				

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
社会資本整備総合交付金事後評価庁内検討チーム	企画調整課、商工観光課、建設課、文化生涯学習課	第1回　平成22年　9月24日 第2回　平成22年10月12日	建設課まち・住まい整備室

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の指標1		その他の指標2		その他の指標3			
指　標　名		小桜館利用者数		フラワー長井線の利用者（団体客）数		消雪施設延長			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路　道路整備（市道平山中道線 他）	○	小桜館周辺を整備することで、丸大扇屋と隣接した文教の杜エリア（宮エリア）が長井市の観光拠点として、位置づけられ、花観光シーズン以外でも1年を通してエージェント等に対してPRできている。また、まち歩きなどのコース設定を行い、多くの方がこのエリアに訪れるようになった。さらに、NPOを中心とした地域の方々が知恵を出し合ってイベントや朝市などを展開し小桜館エリアが市民が集うまちづくりの拠点となっている。	○	本事業や関連事業によりフットパス・コミュニティ歩道、せせらぎ水路の整備や小桜館周辺広場等の整備により、住民や観光客が訪れたくなる環境が整備され、賑わいがでるようになった。これによりJR東日本や大手旅行会社などにフラワー長井線を利用した旅行商品をPRできるようになり、さらには駅から駅へのまち歩きコースを設定し歩きやすい環境として歩道や水路が整備され、水のまち長井をPRできている。	○	消雪施設の整備が促進されたことで、小桜館周辺広場や市道の冬季間の歩行者等のバリアフリー化が向上した。また、観光面で長井の冬期間のまち歩きを設定することができ、JR東日本の「旅市」という旅行商品に取り上げられるようになり交流人口（観光人口）の増加にも寄与した。		
	道路　道路改築（市道横町西2号線 他）	○		○		○			
	道路　コミュニティ歩道整備（あやめ公園駅前通り 他）	○		◎		○			
	地域生活基盤施設　親水公園と駅前広場整備（長井駅周辺）	○		○		○			
	地域生活基盤施設　小桜館周辺整備	◎		◎		◎			
	高質空間形成施設　せせらぎ水路整備（砂押川 他）	○		○		○			
	高質空間形成施設　案内標識の設置（区域内）	○		○		○			
	既存建造物活用事業　歴史的建築物活用（地域交流センター（小桜館））	◎		◎		○			
提案事業	地域創造支援事業　消流雪用水配水路整備事業（野呂川 他）	○		○		◎			
	地域創造支援事業　水辺環境整備（最上川）	○		○		○			
	事業活用調査　事業効果分析調査（長井南地区）	－		－		－			
	まちづくり活動推進事業　ワークショップ開催	○		○		○			
関連事業	最上川フットパス整備事業	○		○		○			

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	NPOが中心に進めてきたイベントや事業展開を、他の関係団体（観光協会・各商店街）と連携を図りまちのにぎわいを他の商店街にも広めていき、隣接する「文教の杜」との相乗効果もあわせて、市内外からの来訪者を増加させる。	フラワー長井線沿線市町と連携し、観光施設や歴史的建造物を巡る旅行商品を造成し、観光客を増加させていきたいが、まずは沿線住民に利用してもらえるような地域の魅力をPRしていく必要がある。	冬期における交通の利便性と安全性の向上を図るため、歩車道の改修を推進していく。	

添付様式４－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3					
指　標　名		交流人口（観光人口）			商業年間売上額（小売業）			中心部交通量（自動車・歩行者別）					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路　道路整備（市道平山中道線 他）	△	せせらぎ水路やコミュニティ歩道等の基盤整備が図られ、まち歩きなどの旅行商品なども成立するようになり、整備以前よりはまち歩きをする観光客は増加したものの、社会的経済情勢の低迷もあり目標の達成には至らなかった。	Ⅲ	△	小桜館周辺やコミュニテイ歩道沿線の駅や商店街、広場でのイベントでの売上額は増加し、さらに街中に誘導するため「長井おいしさ発見の旅」という飲食店などと連携したクーポン付きのマップ等を作成し、中心市街地の活性化を図ったものの、社会的経済情勢の低迷もあり指標とした小売業全体での目標の達成には至らなかった。	Ⅲ	△	道路・歩道等の整備により狭隘道路の解消、回遊路の景観向上が図られ市民や来訪者にとってやさしい交通環境が整ったものの、まだ整備の必要な箇所が残されていることや、まちなかの賑わいを取り戻すような対策が不十分であり目標達成には至らなかった。	Ⅲ			
	道路　道路改築（市道横町西2号線 他）	△			△			△					
	道路　コミュニティ歩道整備（あやめ公園駅前通り 他）	△			△			△					
	地域生活基盤施設　親水公園と駅前広場整備（長井駅周辺）	△			△			△					
	地域生活基盤施設　小桜館周辺整備	△			△			△					
	高質空間形成施設　せせらぎ水路整備（砂押川 他）	△			△			△					
	高質空間形成施設　案内標識の設置（区域内）	△			△			△					
	既存建造物活用事業　歴史的建築物活用（地域交流センター（小桜館））	△			△			△					
提案事業	地域創造支援事業　消流雪用水配水路整備事業（野呂川 他）	△			△			△					
	地域創造支援事業　水辺環境整備（最上川）	△			△			△					
	事業活用調査　事業効果分析調査（長井南地区）	－			－			－					
	まちづくり活動推進事業　ワークショップ開催	△			△			△					
関連事業	最上川フットパス整備事業	△			△			△					

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針（記入は必須）	既存の観光とフットパス、更にはフラワー長井線を利用した観光資源をPRして観光客の誘客を図っていく。また、JR東日本と連携した取り組み「旅市」の旅行商品の企画を提案していく。	各商店街と連携を図り、観光資源を磨き上げて、空き店舗対策事業や商店街をまちめぐりできるようなコースや企画をを旅行商品に組み入れ中心市街地の活性化に向けた取り組みを行っていく。	中心市街地の活性化を念頭に、新たな観光資源の整備や街路事業の実施にあわせて魅力あるまちなみ整備により、まちなかに訪れてもらえるような環境の整備と仕組みを構築していく。	

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
社会資本整備総合交付金事後評価庁内検討チーム	企画調整課、商工観光課、建設課、文化生涯学習課	第1回　平成22年　9月24日 第2回　平成22年10月12日	建設課まち・住まい整備室

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
まちなかを歩いて楽しむ観光ができるような回遊性の確保や景観整備	せせらぎ水路やコミュニティ歩道の整備及び案内標識の設置によりフットパスルート等の回遊性が実現された。また、「駅からハイキング」や「駅長オススメの小さな旅」などフットパスルートを利用したまち歩きイベントが増えた。	フットパスルートの管理について、限られた予算では対応できない部分を、地域と連携した管理をできるよう協議が必要である。	・NPO法人等が小桜館を拠点としたイベントを多く実施したことにより、小桜館の利用者数は飛躍的に伸びた。今後は小桜館活用事業の継続が課題と思われる。 ・㈱山形鉄道等がフラワー長井線を利用した観光イベントを数多く実施したことにより、団体利用者数は飛躍的に伸びた。今後はフラワー長井線利活用事業の継続が課題と思われる。
交流人口をまちなかへ誘導するための施設・基盤整備や再生のためのソフト対策	置賜さくら回廊などで桜に訪れた観光客が、小桜館周辺などに訪れるケースも微増してきた。 NPO団体等（市民活動）によるイベントやまちづくり活動により観光客の増加と住民活動が活発になった。	観光資源のPRやまちなか再生のためのソフト事業で不十分な面がある。一例としては、まちなかへ誘導するための「マップ」や観光客などをもてなす商店街などの体制などについてまだまだ議論が必要である。	
市民アイデンティティを向上させるような，景観と環境に配慮した魅力ある市街地整備	市民が地元の水路や小路を守ろう（活かして行こう）という気運が高まってきている。住民がまちづくりに積極的に参加しはじめてきている。 広場や道路の草刈や植栽等の維持管理を地域住民が率先して協力するようになった。ボランティアガイドによる観光客の案内活動が行われようになった。	住民が長井のまちなかを「知ろう」「歩いてみよう」というきっかけをもっとつくり上げていくべきである。	
今後の急速な高齢化社会への対応及び，居住するすべての長井市民及び来訪者にとってやさしい環境形成	日常の健康づくりに早朝や夕方など、フットパスを歩く人が多くなった。 消雪施設の整備を行ったことにより冬期間における高齢者や通学の安全性を高めることができた。	冬期間における高齢者や児童の通学の安全を確保するため、消雪施設が未整備な通学路を改修していく必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるために行う方策	フットパスルートを利用したまち歩き	コミュニティ歩道やせせらぎ水路の整備促進とともに、まち歩きイベントの企画を増やし、フットパスルートを広く活用してもらえるように環境の充実を図る。	コミュニティ歩道整備事業、まち歩きイベント企画
	NPO団体等（市民活動）によるまちづくり活動	各種整備事業の初期段階から地域住民へまちづくりへの参加を働きかけ、意識の向上を図る。	官民協同によるワークショップの開催
	小桜館周辺におけるイベント	小桜館及び周辺広場を市民の交流拠点としてさらなる充実を図る。 長井まちづくりNPOセンターとの連携強化を図り、イベントの開催等を増やしていく。	建築物整備事業、公園整備事業、小桜館を活用したイベントの企画

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	フットパスルートの管理	フットパスルートの整備後における、除草などの維持管理を地域住民とともに行う。	道路整備事業、地元住民とのワークショップ
	まちなかへの誘導	新たな観光資源の創出とともに、積極的な観光PRを展開する。	歴史的建築物活用事業、HPやパンフレットによるPR、旅行商品の開発
	消雪施設の整備	歩道の整備が不十分である箇所について、中、長期的な整備計画により改善を図る。	道路整備・改築事業
	フラワー長井線利活用事業	㈱山形鉄道と市民、行政が連携した利用・維持活動とイベントや観光商品の開発を継続していく。	イベントやまち歩きとセットとなった旅行商品開発。

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式３）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式４－②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式４－③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式５－②）を再確認した。

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・最近採択された市中心市街地における街路事業を中心に、まちなかに賑わいを創出すべく地元まちづくり協議会等と協同し各種方策を策定していくことが望まれる。
・総花的（広く浅く安く）な事業の実施では中途半端な整備となってしまうため、住民とのコンセンサスを充分にとりながら優先順位を決め集中的な事業実施をすべきである
・観光人口の動向を知るためにタクシーの運転手に観光客に関する状況を聞いたり、小売業の傾向を知るために商店街の人達に意見を聞いたりすれば、もっと良いまちづくりに反映出来るのではないか。

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画 予定時期	計測方法	その他特記事項
指標１	交流人口（観光人口）	万人	110	H16	113	H22	確定		61	×	あり		平成24年4月	平成２４年４月に公表予定である「平成２３年度観光者数調査票」を用いて、久保桜、白つつじ公園、あやめ公園、はぎ公園、黒獅子まつり、水まつりの来訪者数を把握し、確定値とする。	
							見込み	●			なし	●			
指標２	商業年間売上額（小売業）	百万円	36,520	H16	36,140	H22	確定		34,465	×	あり		平成24年6月	「平成２３年商業統計調査（経済センサス）」結果を用いて、小売業の年間商品販売額を把握し、確定値とする。	
							見込み	●			なし	●			
指標３	中心部交通量（自動車・歩行者別）	台／日 人／日	自動車 51,200 歩行者 1,600	H15	52,300 1,630	H22	確定		50,684 1,327	△	あり		平成24年10月	「（平成２４年）市街地交通量調査」結果を用いて、中心部交通量（自動車・歩行者）を把握し、確定値とする。	
							見込み	●			なし	●			
指標４				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
指標５				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標１	小桜館利用者数	人／年	5,516	H17			確定		9,412				平成24年4月	平成２３年度の小桜館利用者数を把握し、確定値とする。	
							見込み	●							
その他の数値指標２	フラワー長井線の利用者（団体客）数	人／年	363	H17			確定		23,735				平成24年4月	山形鉄道株式会社に問い合わせてフラワー長井線の平成２３年度１年間の利用者（団体客）数を把握し、確定値とする。	
							見込み	●							
その他の数値指標３	消雪施設延長	m ㎡	施設延長（道路） 13,468 施設面積（広場） 0	H17			確定	●	14,508 1,264						
							見込み								

添付様式６　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		計測手法の統一と目標値の設定を吟味していく。
	うまく いかなかった点	交流人口（観光人口）の目標設定については、人口の計測手法の変更や主要公園の観光客の減少も加わり達成度が下がってしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	小桜館及び周辺を整備したことにより、NPO法人等が小桜館を拠点としたイベントを多く実施するようになった。	NPO団体等（市民活動）によるまちづくり活動を支援していくことが必要。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		数値指標の計測値を随時検証し、大幅な変化があった場合目標の見直しを行う必要がある。また、数値指標計測する時期についても充分吟味しておく必要がある。
	うまく いかなかった点	・指標１交流人口の集計方法が平成１７年以降変更され、大幅に観光人口が減っていたがそれに気付かなかった。 ・指標２の商業年間売上額（小売業）については、次回調査は、平成23年6月であり公表が平成24年6月の速報で確定値であるため本事業の効果検証には時間が空きすぎるため推計に苦慮した。 ・指標3については、平成23年度まで本調査が行われないため事後評価としてのデータ収集まで時間があきすぎてしまった。	
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式６－参考記述　今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

なし

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	ホームページへの掲載により公表	平成22年11月　4日から 平成22年11月17日まで	平成22年11月　4日から 平成22年11月17日まで	担当課へのFAX、電子メール、窓口提出	建設課まち・住まい整備室
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成22年11月　1日発行 広報1,152号	平成22年11月　4日から 平成22年11月17日まで		
説明会・ワークショップ	－	－	－		
その他	窓口供覧（建設課）	平成22年11月　4日から 平成22年11月17日まで	平成22年11月　4日から 平成22年11月17日まで		

住民の意見	○まちづくり交付金の目標を達成するには、エリアが広すぎる。目標を達成のためエリアや事業を集中すべきではなかったか。通常の維持管理工事とどうちがうのかと思われる事業もある。 ○ 道路整備については、なるほど常づね「せまいな～」と思っていた部分が拡幅されているのでかゆい所に手が届いた感があり、有効であったと思います。また、拡幅でなくとも水回りの処理として側溝整備などは歩行者にとって、雨季、冬季の歩行環境改善策として喜ばしいものと思います。 ○ コミュニティー歩道整備に関しては、必ずしも歩行者数の調査をもとに必要性が求められたのか疑問に感じます。遊歩道とは自然環境を満喫する散歩道ではないでしょうか。対して、今回の整備に関しては町中の、短距離道の整備にとどまっているように思えて残念です。 ○ 水路整備について、まずせせらぎ水路ですが、水のまちを標榜する長井市にとっては、必要なことと思います。親水空間の提供は住民にとってもありがたいものです。願わくば、今後、流水のますますの水質改善を願います。 消雪用水路については、雪国にとっては必要です。大雪の折などよく融雪溝があふれている場に出会います。排雪機構の整備は雪下ろし、雪片付けを行う人間にとってはありがたいことです。 ○ 駅西広場の整備は、お出迎えの精神とでも申しましょうか、市外からの来訪者の玄関口となる長井駅ですから、その整備は意味があると思います。その街に対する観光客の第一印象はまず駅から！と思います。来訪者を迎える、玄関がみすぼらしい、きたないではもってのほかです。今回せせらぎ水路を配した親水公園を併設したわけですが、汽車時間を待つ観光客の一息の場、市民の憩いのスポットとして、長井線に親しみを持つ起爆剤となればなお効果的でしょう。 ○ 小桜館周辺整備については、文教の杜の一角として、長井の文化スポットになっています。いずれの街においても文化スポットには緑がつきもの。自然環境に囲まれた中に文化施設はよく似合います。小桜館は元郡役所としてクラシカルな様式がおしゃれです。おしゃれな外観を引き立てるためには周辺もおしゃれに！環境整備は歓迎です。

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	加藤俊昭　・山形工科短期大学校住環境計画専攻コース准教授・長井市行財政改革推進委員	第1回　平成22年11月16日 第2回　平成22年12月　1日	建設課まち・住まい整備室(まちづくり交付金担当課)	設置要綱等なし	独自に設置
その他の委員	高橋郁子・(特)長井まちづくりNPOセンター副代表理事 鈴木義弘・山形県建築士会広報情報委員会委員長、山形工科短期大学校非常勤講師				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従い事後評価が適正に実施されていることが確認された。
	成果の評価	・整備する地域を絞り込み集中的にお金をかけて整備しても良かったと思う。想像力をかきたてるな整備を目指して欲しい。 ・交流人口（観光人口）については、平成17年から集計方法の変更があったとはいえ、達成度が約半分であり目標値の設定に問題があったのではないか。数値指標の設定は慎重に行って欲しい。
	実施過程の評価	・小桜館周辺整備等の際にワークショップの実施が事業の効果発現に寄与しているという意見があった。
	効果発現要因の整理	・観光人口の動向を知るためにタクシーの運転手に観光客に関する状況を聞いたり、小売業の傾向を知るために商店街の人達に意見を聞いたりすれば、もっと良いまちづくりが出来るのではないか。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は妥当であることが確認されたが、整備前の状況も分かるような工夫と、多くの市民に広く周知させる方法の工夫を求められた。→手続き手法については、広報、HPの他に市民課等のホールへ掲示するなど、市民によりPRする方法も検討していく。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当に進められているものと認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・『水のまち長井』にふさわしい水路整備のために環境調査や景観に配慮した自然型の整備を望む。 ・総花的（広く浅く安く）な事業の実施では中途半端な整備となってしまうため、住民とのコンセンサスを充分にとりながら優先順位を決め集中的な事業実施をすべきである。→現況調査の実施や、現在策定中の長井市景観計画・条例を活用しながら景観等に配慮した市民のコンセンサスを得たレベルの高い公共事業を目指していく。
	フォローアップ	・フォローアップを確実に実施して市民に公表し理解を得るようにとの意見があった。→フォローアップを確実に実施し広報やHPの他にも市民に公表していく方法を他にも検討していく。
	その他	・事業実施に際しては、集中的に事業を実施することにより他の事業が多少後回しとなっても、観光客数や小売り販売額の増加があれば市民にとっては結果的には良い評価を得ることが出来るのではないかとの意見があった。→役所内や住民のコンセンサスをとりながら優先順位による集中整備の手法も検討していく。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策の内容は妥当であると認められた。
その他		・特になし

※1　審議事項の詳細は「社会資本整備総合交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。